

## ○2008 年の輸入野菜の動向（『野菜情報』3 月号より）

2008 年の輸入動向をみると、年初より輸入量は低調で始まり、2008 年を通して低く推移した結果となった（図 1、農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」による）。2008 年累計で前年比 90%、およそ 25 万トンの減少となった。2008 年における国別の輸入量の占める割合は、中国が 51%、米国が 21%、ニュージーランドが 5%、タイが 4%となっている。タイは、2007 年と比べると輸入量が 110%増加しており、中国から産地が移行していると思われる。2008 年の中国からの輸入量は、前年比 81%およそ 26 万トンの減少となっており、2008 年全体の輸入量の減少量とほぼ同じであることから輸入量減少の主な要因であると思われる。

全体の輸入動向と中国からの輸入動向を図 2 および図 3（いずれも農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」）で見ると、連動していることが分かり、中国の増加とともに 2005 年は 2,911 千トンとピークを迎え、その後中国の減少とともに全体の輸入量も減少し、2008 年は累計で 2,258 千トンとなった。

中国からの輸入が 2008 年年初から低調で推移したのは、中国側による輸出規制が 2007 年 9 月から開始され、山東省のねぎ、しょうが、塩蔵きゅうりなどで一時輸出を停止した影響によるものと考えられ、その後は、2008 年 1 月に発覚した中国産冷凍ギョーザ事件により更に落ち込むこととなった。月別に中国の動向をみると、1 月の中国産冷凍ギョーザ事件の発覚以後 2 月、3 月と大幅に低下、その後回復傾向にあったが、10 月に冷凍いんげんで残留農薬が検出された影響で 11 月に再びやや減少している。12 月にやや戻したものの年間を通して前年を上回る月は一度もなかった。中国からの輸入を類別に前年と比較すると、生鮮野菜が 73%、冷凍野菜が 83%、乾燥野菜が 94%、酢調製野菜が 80%、トマト加工品が 92%、その他調製野菜が 86%、その他が 84%となっており、生鮮野菜の減少が大きいことがわかる。生鮮野菜の輸入量を最も輸入が多かった 2005 年と比較すると 49%と大きく減少しており、以前は生鮮野菜が冷凍野菜のおよそ 2 倍輸入されていたが、2008 年では生鮮野菜、冷凍野菜とほぼ同じ量となっている（図 3、4。いずれも農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」）。

品目別にみても前年と比べて大きく減少したものは生鮮野菜であり、さといもが前年比 56%、しいたけが同 47%、えんどうが同 27%などと減少している。生鮮野菜以外では、塩蔵等野菜のらっきょうが同 74%、その他調製野菜のアスパラガスが同 71%となっており、これらの品目はいずれも中国からの輸入が主であるため、中国からの輸入の減少が直接輸入量の減少につながった。

2008 年を通して、全体的に輸入量が減少した中で増加した品目は、生鮮野菜ではメロンが前年比 118%、ジャンボピーマンが同 103%、セルリー（セリ）同 108%、冷凍野菜ではばれいしょが同 102%、塩蔵等野菜ではしょうがが同 132%等がある。生鮮メロンはメキシコからの輸入が前年少なかったのが例年並みに回復したことによる。ジャンボピーマンは韓国からの輸入量が同 117%と大きく伸びたことによる。セルリー（セリ）は 2008 年は米国から 100%輸入しており、米国からの輸入が増加した。冷凍ばれいしょは、冷凍野菜のうち 37%を占める品目であり、そのうち米国が 80%を占めているが、米国の輸入が増加したことによる。また中国からも輸入されているが前年比 82%と減少している。塩蔵しょうがは、中国とタイが主な輸入国であるが、2008 年はタイが前年比 168%と大きく増加し、反対に中国が同 90%と減少した（図 5、農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」）。塩蔵しょうがの動向をみると、2006 年までは中国が最も多い輸入国であったが、その後タイが奪還し、2008 年実績ではタイの占有率は 70%となった。

図 1

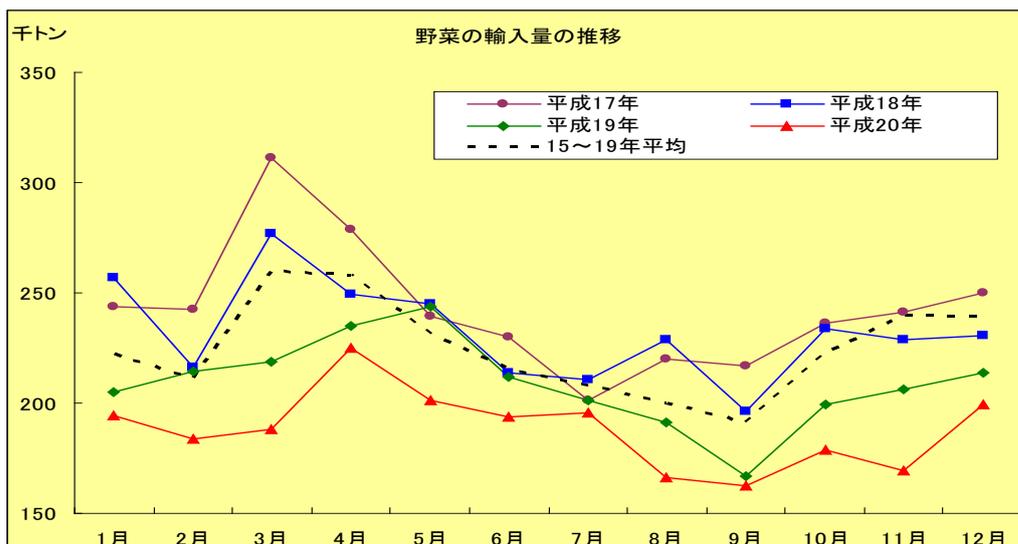


図 2 日本における野菜の類別輸入量の推移

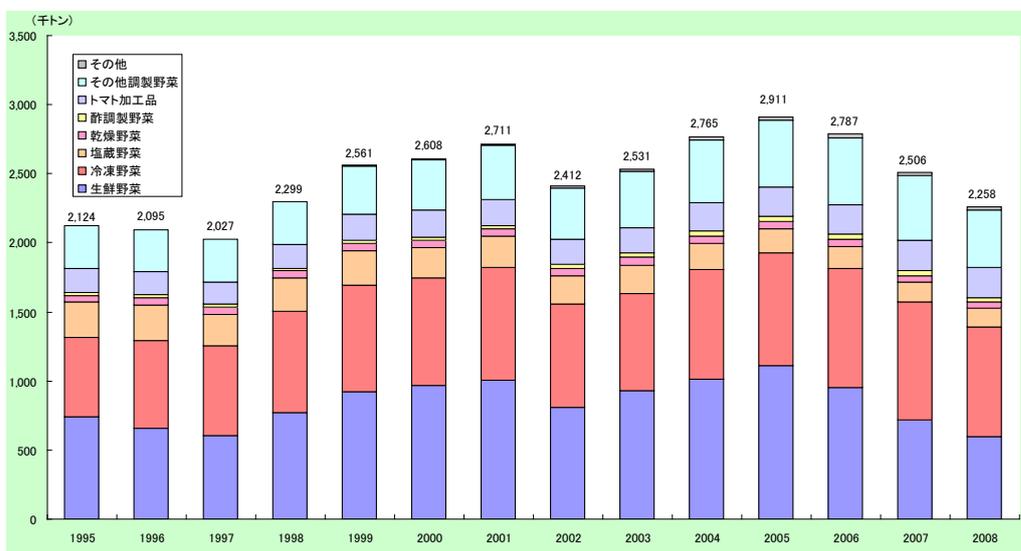
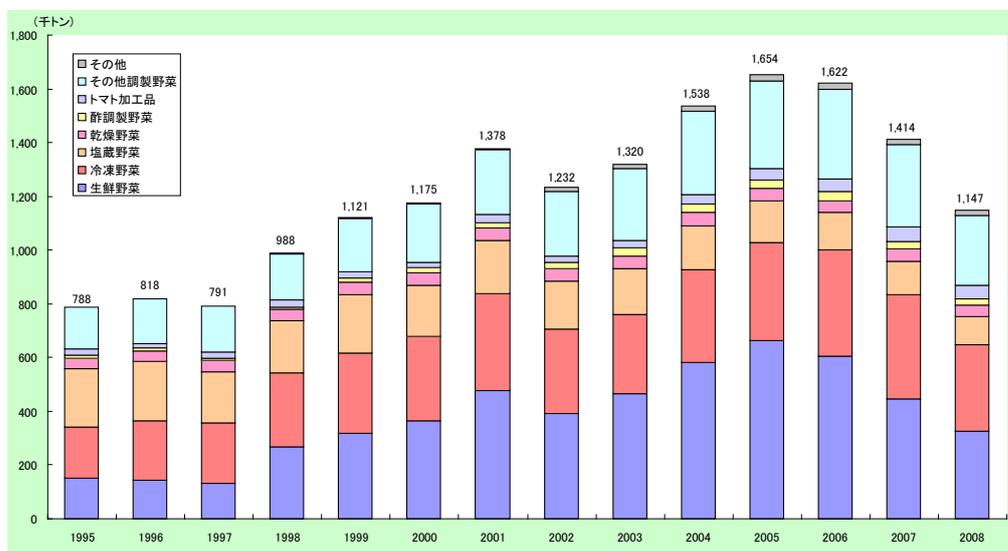
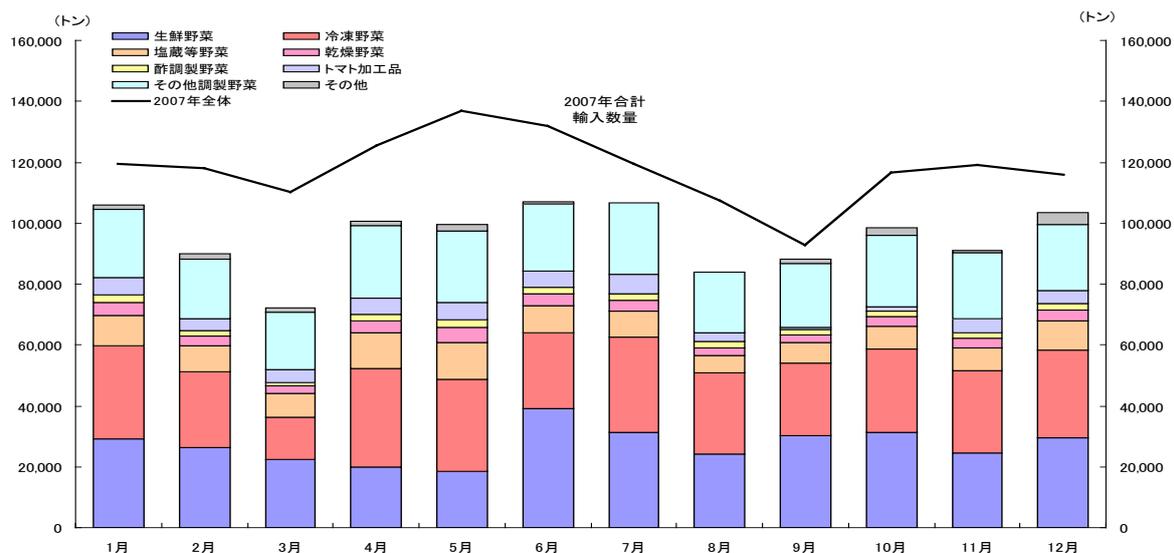


図 3 中国からの野菜の類別輸入量の推移



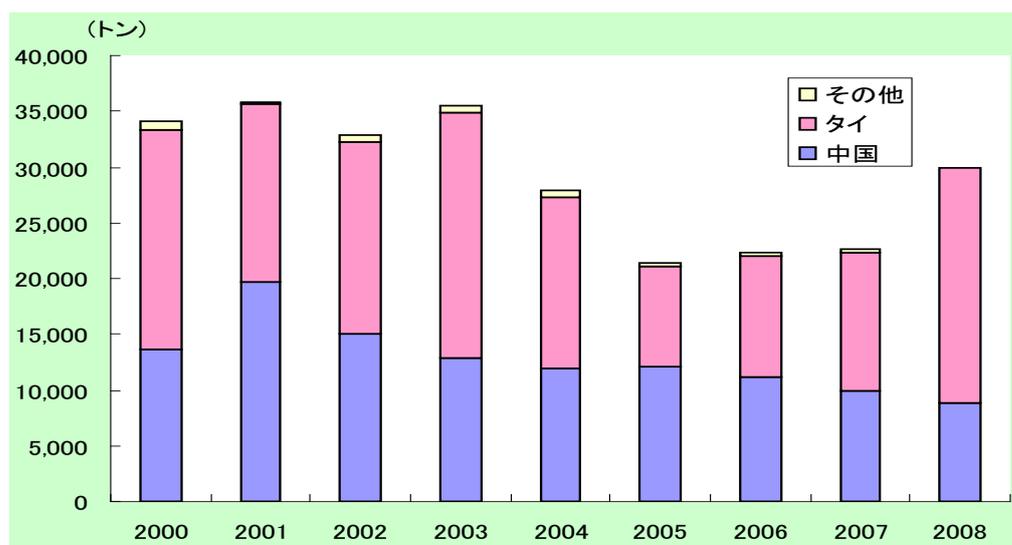
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」

図 4 中国からの月別類別輸入状況



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」

図 5 塩蔵しょうがの輸入動向



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」

表 1 中国からの主な違反及び監視強化品目

年	違反及び監視強化品目	検出状況
2002.3	冷凍ほうれんそう	基準値を超える農薬の検出
2004.7	冷凍ちんげんさい	基準値を超える殺虫剤の検出
2006.8	にんにくの芽	基準値を超える農薬の検出
2007.5	冷凍パプリカ	基準値を超える殺虫剤の検出
	冷凍ピーマン	基準値を超える殺菌剤の検出
2007.8	冷凍えだまめ	基準値を超える殺虫剤の検出
	冷凍未成熟いんげん	基準値を超える殺虫剤の検出
2008.1	中国産冷凍餃子中毒事件	
2008.2	生鮮にんじん	基準値を超える農薬の検出
2008.10	冷凍いんげん	基準値を超える殺虫剤の検出
2008.11	赤とうがらし	放射線照射

資料：厚生労働省HP